

■松本清張記念館

松本清張記念館は、北九州市で生まれ、その半生を過ごした松本清張の業績を伝える日本唯一の記念館です。

館内では、清張の広範囲な創作活動と、「人間・松本清張」を体系的に理解できるように展示品やグラフィックパネルなどを用いたビジュアルな手法で展示・紹介しています。

清張の生涯とその時代や約 700 冊と言われる清張の著書の紹介の他、清張が思索と創作に没頭した東京、高井戸の邸宅の書斎・書庫・応接室などを展示しています。

また、ノンフィクションの代表作「日本の黒い霧」を題材にしたオリジナルドキュメンタリーの上映も行われています。

■供用開始：平成 10 年 8 月

■平成 26 年度入場者数：4.1 万人



松本清張の全著作



松本清張の書斎の展示

■勝山公園

勝山公園は、小倉城を中心とした公園全体の総称で、市のシンボル公園として位置づけられています。

紫川と一体となった整備が行われ、都心のオアシスとして、多くの市民に親しまれています。

芝生広場、水上ステージでの様々なイベントの開催や、散歩やジョギングなどの他、子どもの遊び場も整備され、都心部の憩いの場として利用されています。

■再整備：平成 18 年 3 月 市役所南側エリア完成
平成 19 年 4 月 中央図書館エリア完成

■公園面積：21.1ha



紫川と勝山公園大芝生広場

■水環境館

水環境館は、川・自然・環境について、楽しく遊んで学べる施設で、巨大なアクリル窓（河川観察窓）からは、紫川の中の様子が直接観察でき、子どもから大人まで楽しめる人気スポットとなっています。

紫川に生息する生き物の展示や、北九州市の水循環が学べる情報スコープ、紫川の環境の変遷や治水・上下水道事業のあゆみが分かる年表などを展示しています。

■供用開始：平成 12 年 7 月

■平成 26 年度入場者数：16.0 万人



紫川の中の様子が観察できる
巨大なアクリル窓

1-2.小倉城周辺の史跡などの概要

■石垣

小倉城の石垣は、その歴史を知る上で、当時の姿を今に伝える貴重な資料です。

城の石垣は、主に足立山系から運びだした自然石をそのまま積み上げた「野面積み^{のづら}」と呼ばれ、その豪快な風情は、戦国大名、細川忠興の自慢の一つと言われています。

石垣を詳しくみると、毛利、細川、小笠原と城主の変遷に伴い、石垣を積み替え、城を広げていく痕跡や、時代による石の割り方や積み方の違いなどを知ることができます。絵図と比べることにより、門の位置が変わり、本丸への入り方が変わっていく様子なども読み取ることもできます。

また、石垣にみられる刻印や墨書などから、築造にあたった石工の存在や、周辺地域とのつながりが分かり、様々な情報の宝庫となっています。



「野面積み」の石垣

■城門跡

かつて小倉城城内に存在していた城門は、現在では石組のみがその姿を残しています。

文献資料などから、城門の役割や、城門の通行を許された階級、役職などを知ることができ、江戸時代の武家の生活をうかがい知ることができます。



虎の門

小倉城の外玄関口としての正門で、天守から見て真の方角にあるためこの名がつけました。



大手門

城の玄関口となる正門にふさわしい門として、立派な巨石が多用されています。



櫓門（けやきもん）

藩主、公儀役人の他、家老や主な寺の住職のみが通行を許された門。



鉄門（くろがねもん）

中老以下一般武士が通行した門です。（左半分が往時のもの。）

■文学碑など

小倉城城内、勝山公園内には、小倉にゆかりのある文学者の功績をたたえた文学碑の他、郷土の文化と関連のある塚、記念碑など多くの碑が存在します。それら碑のいわれや歴史を掘り下げると、小倉のたどってきた数多くの物語を知ることができます。



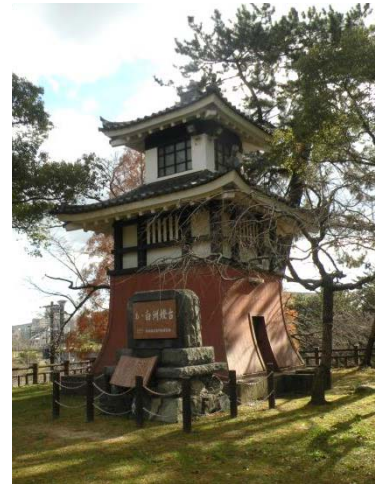
横山白虹の碑



劉寒吉の碑

岩松助左衛門と白洲燈台

白洲燈台は、明治初頭に船の遭難を防ぐために、私財を投じて長浜（小倉北区）に灯台を建設しようとした岩松助左衛門翁の遺徳と、水難救助に尽くした功績を顕彰するために、北九州市誕生（昭和38年）に合わせ、翁が設計した白洲灯台を模して城内に建てられました。



白洲燈台

■万葉の庭

万葉の昔、大里から小倉にかけての海岸は、企救の「長浜」または「高浜」と呼ばれ、松が群生した美しい白浜の海岸が広がっていました。勝山公園内の万葉の庭は、いにしえの面影をしのび古代万葉の詩情を現代に生かす目的で、この地にゆかりのある歌6首を選び、昭和46年に万葉の庭建設委員会により建設されました。

（平成18年の勝山公園の再整備に伴い、一部移設を行い、現在の形状になっています。）



■原爆犠牲者慰霊平和祈念碑

「原爆犠牲者慰霊平和祈念碑」は、当初、小倉陸軍造兵廠に投下される予定であった原爆が、長崎に投下されたという歴史をふまえて、被爆者の霊を慰め、平和への切実な願いをこめて、昭和48年に北九州市により建立されました。

碑は、^{こうか}劫火の中で手を取り合う母子像を形どったものです。この碑と並んで、長崎市から寄贈された「長崎の鐘」が建立されています。

毎年、8月9日には、原爆犠牲者慰霊平和祈念式典が行われています。



勝山公園の一角に建ち並ぶ
平和祈念碑（左）と長崎の鐘（右）

2. 小倉城周辺エリアにおける課題

小倉城周辺エリアの現状から考えられる課題は以下のとおりです。

課題 1 魅力的な歴史的・文化的資源の活用

対象エリアは、北九州のたどってきた歴史を伝える小倉城・小倉城庭園などの歴史資源や、中央図書館、松本清張記念館、文学館、句碑・文学碑などの文学資源が数多く存在する場所です。さらには、小倉祇園太鼓や小笠原流礼法、小倉織など、今日まで脈々と受け継がれてきた伝統文化ゆかりの地でもあります。

しかしながら、現状では、それら個々の資源が持つ可能性や魅力を十分に発揮させ、効果的なPRができていないといえます。

小倉城周辺の成長した樹木の一部が天守閣の景観の妨げになっていることや、宮本武蔵や佐々木小次郎といった歴史上の有名人と小倉とのつながりがあまり知られていないことなどは、その一例です。

そのため、個々の資源の見どころや北九州とのかかわり、関連する著名な人物・出来事などを改めて掘り下げ、魅力的なポイントの再発見や磨き上げを行うなど、対象エリアの持つ歴史的、文化的価値を最大限に引き出し、活用することが求められます。

課題 2 施設間の連携・くつろぎスペース・アクセス環境づくり

対象エリアには、多くの魅力的な施設が集積していますが、それらを全体的に紹介する案内サインや散策ルートがないなど、施設間の連携を支える仕組みが十分でなく、個々の施設がそれぞれの役割に特化している現状です。

このため、人の流れが各施設で完結してしまう傾向があり、エリア全体での集客や魅力の発信に繋がっていません。

また、広いエリアに対して、来訪者が座ったりお茶を飲んだりする休憩場所が少なく、徒歩移動がためらわれるということも、回遊性や滞留を阻害している要因の一つと考えられます。

そのため、施設の相互利用を促進する仕組みづくりや、移動や滞留を快適に楽しんでもらうための案内サインの充実、散策ルート、休憩スポットづくりなどが望まれます。

案内サインや散策ルートにはテーマ性を持たせ、歴史や文化が学べる工夫をするとともに、休憩スポットは来訪者だけでなく市民のくつろぎ・交流スペースともなるよう、緑の中や川辺でゆっくりと滞留し、ふれあいが生まれるような空間とすることが重要です。

加えて、外国からの団体客や修学旅行客の受け入れには欠かせない、大型バスの駐車スペースの確保や、主要な駅からのアプローチに対する魅力づくりなども求められています。

課題 3 おもてなし・情報発信の強化

対象エリアには、あまり知られていない「まちの誇り」となる資源があります。

例えば、小倉城は古くから桜を植えることが許されていた特別な城であったこと、小倉藩は宮本武蔵の養子である伊織が重臣として仕え、武蔵自身も生涯でもっとも長く滞在した街であること、徳川家康も陣羽織として愛用した小倉織は江戸時代に全国的な人気を博したこと、小倉藩主であった小笠原家は小笠原流礼法の宗家であり、現代までおもてなしの心を伝えていることなど、市民が誇り、来訪者の好奇心を誘う情報や資源はこの街ならではの強みです。

これら資源に磨きをかけ、様々な媒体を使って対外的にアピールすることや市民・子どもたちへの伝達を通じたシビックプライドの醸成が求められます。

また、礼法を伝える日本唯一のユニークな施設である小倉城庭園を活用し、市民におもてなしの心を広め、来訪者には市民との交流を通じて、和の文化や北九州ならではの伝統を体験してもらうことも望まれます。

Ⅲ.小倉城周辺魅力向上事業 基本計画の考え方

1. 事業の目的とテーマ

小倉城の周辺エリアには、小倉城をはじめ、小倉城庭園、中央図書館や、文学館、松本清張記念館などの歴史的・文化的な施設が集積しています。

また、城下町としての歴史により育まれてきた郷土の伝統や、近代日本の礎を担い、多くの文学者を輩出してきた独自の文化的な土壌があります。

これらは、市民にとってのかけがえのない財産であると同時に、北九州市を訪れる観光客にとっても魅力的な観光資源となります。

本事業は、小倉城周辺エリアにおいて、「北九州 小倉ならではの」の地域資源の魅力を再発見し、磨き上げをすることで、このエリアの持つ歴史的、文化的なイメージを生かした整備、にぎわいづくりイベントなどを行い、集客力や回遊性のある「誰もが一度は、そこを訪れてみたい」と思う観光・文化の名所としていくものです。

さらに、当地が次世代に引き継げる名所として、魅力ある場所であり続けるために、北九州市を訪れるインバウンドを含めた観光客との交流を大切にしたエリアづくりを推進し、市民が誇りを持ってあたたかく来訪者を迎え入れるホスピタリティ溢れる土壌づくりを行います。

事業の目的に基づき、小倉城周辺を魅力ある場所とするためにテーマを以下のように設定します。

テーマ

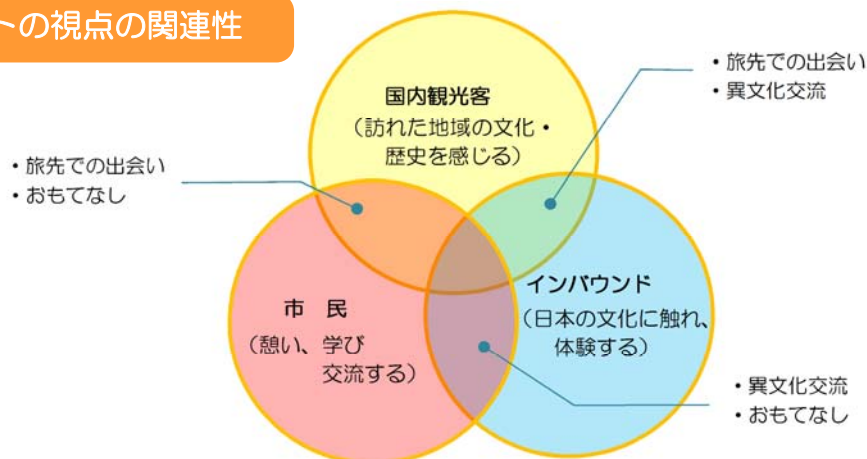
北九州 小倉ならではの歴史的・文化的な資源を活用した
集客力や回遊性のある観光・文化の名所づくり



2. ターゲットの視点

小倉城周辺魅力向上事業では、北九州市を訪れる「国内観光客」、「インバウンド」の視点、そして、日常生活で利用している「市民」という主な3つのターゲットの視点に注目し、事業を推進していきます。

ターゲットの視点の関連性



国内観光客の視点からのアプローチ

北九州市の風土に触れ、北九州らしさを体験できる場所。

このエリアの誇れる歴史・文化資源、たとえば宮本武蔵や松本清張、小笠原流礼法や小倉織などに焦点をあて、旅行者の知的欲求や好奇心、感動やわくわく感など、ここでしか味わうことのできない場所づくりを行っています。

さらに、旅行者が市民と一緒に体験し、楽しみ、「またここに来たい」と思うような取り組みを進めていきます。



インバウンドの視点からのアプローチ

日本文化の体験を通じて、「非日常」を感じられる場所。異文化にふれる場所。

外国人に人気のある小倉城や小倉城庭園などの歴史資源に光をあて、小倉の歴史や和の雰囲気を感じ、呈茶や着付けなどのおもてなしにより、日本文化を体験していただく場所づくりを行っています。

さらに、「おもてなし」にも磨きをかけ、感動や満足感の声を上げ、新たな来客を生み出していく好循環を目指していきます。



市民の視点からのアプローチ

ライフスタイルにあわせ快適にすごせる場所。郷土の素晴らしさを再発見する場所。

日常生活の場として、市民がいつも集い、にぎわい・憩える場所、また来訪者との新たな出会いや、発見ができる場所づくりを進めます。

また、市民が郷土の歴史、文化の財産を知り、学ぶことで、シビックプライドを醸成し、さらに人々の交流の輪が広がるホスピタリティ溢れる場所としていきます。

